

平成 30 年度 第 3 回意見交換会実施記録

1. 実施結果

- ・開催日時 平成 30 年 7 月 11 日 (水) 19:00~20:45 (予定より 15 分延長)
- ・会場 ラ・ホール富士 5 階研修室
- ・概要 新環境クリーンセンター循環啓発棟に関する市民との意見交換会。今回は、什器備品 (展示) に関する前回の回答と「市民が主役」の施設を目指すための活動計画の工程表づくりを行った。ワークショップは、①理念や組織、②展示、プログラム、運営、③環境フェアへの出展、市民への PR や広報の 3 つのグループに分かれて、プロジェクトのゴールや活動スケジュールについて話し合い発表した。
- ・出席者 市民 17 名
事業者 5 人 (3 社)、設計施工監理会社 1 人、富士市職員 6 人、進行 1 人 計 13 人
- ・進行 坂本竜児 (NPO 法人エコデザイン市民社会フォーラム スタッフ)

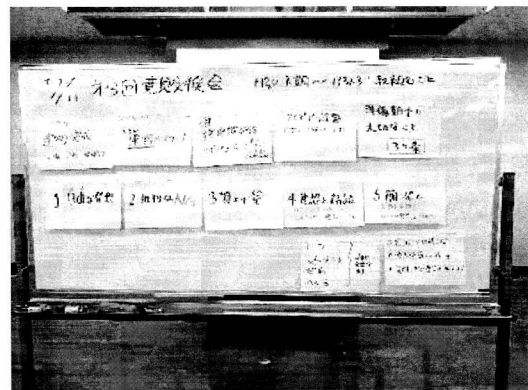
2. 内容

(1) 趣旨説明

- ・2020 年 4 月に建物が完成し、10 月に環境学習施設がオープンする。お風呂と環境学習施設は、指定管理者として、クリーン工房が管理運営を行う予定となっており、その一部の環境学習施設を「市民が主役」の施設にしたいと思っている。
- ・そのために、第 1 回目では施設の運営について説明し、施設がオープンするまでの準備期間をどの様に過ごすかアイデアや課題について話し合った。2 回目では準備期間中に大事にしたい 3 箇条を話し合った。
- ・今日は 3 回目、まとめのワークショップとして、活動計画をみんなで作成したいと思っている。短い時間の中で作る計画なので、粗い状態にしかならないと思う。本来は市民がまとめて、市や事業者へ提案をして合意したうえで、学習施設の準備が進められたらよいと思う。



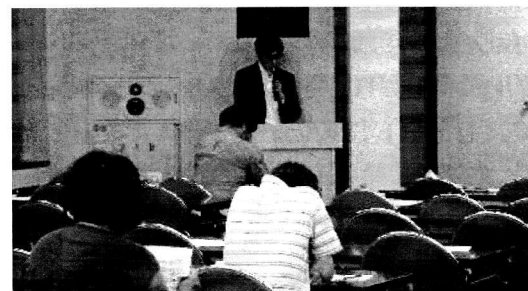
会議進行の様子



趣旨の説明内容

(2) 環境啓発設備に関する説明

- ①川崎重工より
 - ・第 2 回目の意見出しで一部のことについて回答したが、みなさんの意見を整理した回答を持ってきた。赤字は前回説明した部分なので割愛する。
- ②進行より補足
 - ・市の発注仕様書に基づき、複数の事業者が提案をして審査をして事業者と作るものが決定している。ただし、決まっているとはいえ、何を事業者が作り込んで、市民がどこまで携われる



環境啓発設備に関する説明

かは決まっていない。例えば、デジタルサイネージは設備として導入するが、その中身はどんな風にも工夫できる。オープンまでに市民がどの程度かわるのか、オープン後に働いている人が更新するのか、まだ明確な方針はない。同様に紙芝居を作ろうというアイデアも事業者にある。作った物を納品してもらい活用するのか、自分達で使う物をみんなで創るのか決まっていない。いろいろ決まっていない中で、事業計画を作ろうというのは無理難題を承知でお願いしている。

(3) 活動計画づくりの進め方

①活動計画の作り方

- ・もし、学園祭や地域の行事で、たこ焼き屋をやろうということになったら、どんな手順を踏めば実現するだろうか。
- ・まずは、一人では大変なので仲間づくり、それからメニュー開発、試作、露天商の手続きなど、やるべきことがいくつか出てくる。これを、時間軸を踏まえて順序だてて項目を置く。
- ・今日、話し合おうとしていることは、「たこ焼き屋」という明確なものではなくではなく、「イベントで飲食店をだそう」、「イベントで何やろう」という明確な物がない中での話し合いとなる。
- ・何を話し合ったらよいか分からないのはよくわかるが、何かを置かないと前に進まない。スモールステップを置くことができれば次が見えてくると思う。今日話し合った活動計画は仮のもの、やってみて計画自体を見直しながら進めたらよい。

②話し合いのテーマ（プロジェクト）の設定

- ・本当ならみなさんからテーマを投げかけてもらいたいところだが、時間も限られているので、私なりにこんなことに興味があるのではないかと思い①環境フェアへの出展～⑦その他までテーマ候補を出してみた。

※意見交換を踏まえて3つのテーマで話し合う。

- 1) 理念や組織体制
- 2) 展示やプログラム、ボランティア育成、施設の運営
- 3) 環境フェアや市民への広報活動

③話し合いの手順

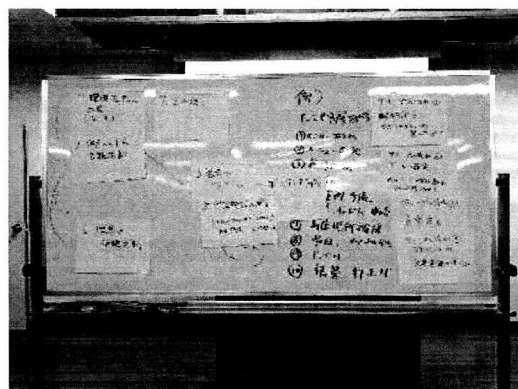
- ・グループに分かれて座ったら、プロジェクト名と名前を書く。そして、自己紹介でこのグループを選んだ理由を、一通り話をして、オープンの時のゴール設定をした後にフリートーク。最後にスケジュール化し、必要な資源の洗い出しをして欲しい。

(4) グループに分かれて話し合い

- ・30分程度グループに分かれて話し合いを行った。
- ・各グループには関係ある事業者を配置し、進行のサポートや現状の説明を行った。



活動計画づくりの進め方の説明



活動計画づくりの説明



話し合いの様子

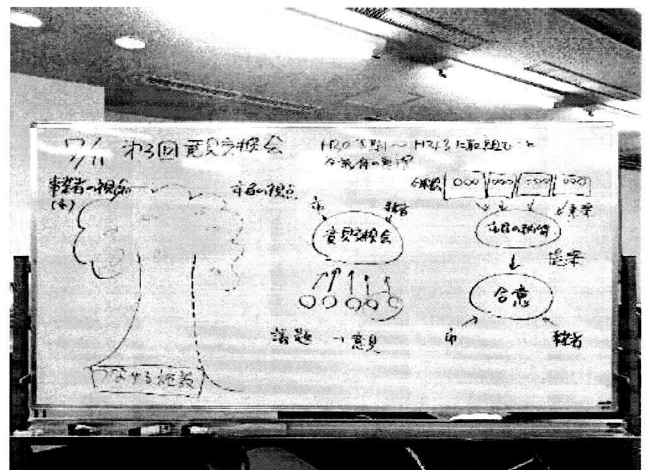
- 1) 理念や組織体制：クリーン工房
- 2) 展示やプログラム、ボランティア育成、施設の運営：トータルメディア
- 3) 環境フェアや市民への広報活動：富士市

(5) 発表

- ①環境フェアや市民への広報活動
- ②展示やプログラム、ボランティア育成、施設の運営
- ③理念や組織体制

(6) まとめ

- ・今年度下期に向けて、取り組みのヒントになればと思ってお伝えする。
- ・決まっている、決まっていないがわからないことについては、事業者は審査で提案したものを作り込む。市民側は、何を作ろうとしているか分からない。市民はどこまで知りたいのか。「つながる施設」という言葉は、事業者が提案をしている。でも、つながるって、いったいどういうことかは一人ひとり解釈が異なる。決まっていることがわからないというのは、どこまで関わりたいかの裏返しだと思う。
- ・会議体を見直す必要がある。今までは市が設定した意見交換会。意見を求めたいテーマが合って、意見をもらい、回答をする。それと並行して市民が自ら動く活動計画を作るという場面を作った。意見交換では、バラバラな市民の意見だったが、今後は、興味関心ごとや得意分野で分科会を開催し、たたき台を作成する。そして市民間で議論して市民案の醸成したものを、市役所や事業者に提案をする形が望まれる。
- ・市民案を取りまとめるための会議や三者が集う全体会の準備は、専任の事務局が必要となってくる。エコットの設立準備事務局を担った経験から、自分が事務局役ならもっと違う進め方をしている。でも、富士市民が事務局を担うべきだと思い、今回のような意見交換会を行った。
- ・この後は、市民のみなさんが自主的に集まり、計画を深めて、市に提案できる状況になることを期待している。



まとめの説明

(7) 事務連絡

- ・今後の案内、今年度前半の意見交換会は終了したがビオトープなど意見交換をしたいこともある。参加の呼びかけをするので名簿づくりにご協力をお願いしたい。
- ・個人情報、市が主催する意見交換会の開催案内を送るために利用する。
- ・アンケートにご協力をお願いします。

以上